

## あ と が き

平成29・30年度の2年間をかけて行われた、阿波学会三好市総合学術調査の成果報告（紀要62号）をお届けします。今号より新たに編集委員長に就任し、作業過程においては不行き届きの面もあったかと思いますが、編集委員・事務局をはじめ関係の皆様のご協力のもと、予定通り紀要を刊行することができました。

紀要62号には、通常原稿13本、特別寄稿9本の計22本の研究論文を掲載しております。三好市は徳島県西部に位置し、県内市町村のうちもっとも広い面積を有します。自然・文化環境の多様性に富んだ地域で、そうした特色が、本紀要に収められた各論文からも見て取れます。三好市域を対象とした総合学術調査は、昭和30年祖谷川流域、昭和47年祖谷・松尾川流域、昭和53年山城町、昭和55年池田町、平成15年三野町、平成19年三好市「旧東祖谷山村」という形で、旧町村単位で順次行われてきました。平成18年に町村合併により誕生した三好市全域を対象とした調査は今回が初めてですが、あらためて「変化」という視点、またより広域的な視点を含め、三好市の自然・歴史・文化・社会の様相を総合的に見直すよい機会になったのではないかと思います。

紀要の形式という点で申しますと、今号から、巻末CDにおけるデータ収納形式を少し変更させていただきました。前号までのCDでは、html形式のトップページからリンク形式でデータにアクセスする形をとっていましたが、編集作業の簡略化と利用者の閲覧の簡便さを考慮して、CD内に掲載論文ごとのフォルダーを作成し、そこに写真や図表などのデータを収めるというシンプルな形にしました。利用される方は、見たいフォルダー、ファイルをクリックするだけでデータが閲覧できます（PDFファイルの閲覧に関しては、これまで同様、必要に応じて対応ソフトをダウンロードしていただくことになります）。

本紀要に掲載された情報は、主にこの2年間の調査に基づくものですが、その背景には、各調査班とそのメンバーの各地における精力的な調査の取り組みの蓄積があります。過去の紀要をひもといていただければ、各論文の詳細で精緻な内容と的確な分析は、こうした長期にわたる経験に裏付けられたものであることがご理解いただけるのではないかと思います。今後とも県内各地での調査研究と紀要での成果報告を通して学術面からの地域貢献を継続することが、阿波学会の使命と考えております。

末筆になりましたが、紀要62号作成にあたり多大なご協力、ご支援をいただきました三好市および三好市民の皆様、また関係各位に、編集委員一同を代表して心より感謝申し上げます。

（阿波学会紀要編集委員長 高橋 晋一）

阿波学会紀要第62号『三好市総合学術調査報告』編集委員会

委員長 高橋 晋一

副委員長 中野 真弘 西山 賢一

委員 茨木 靖 岡本 治代 岡山真知子 喜多 順三

仙波 光明 長澤 寛二 羽山 久男 萬宮千鶴子